

令和元年度全国学力・学習状況調査の結果について

熱海市教育委員会
熱海市全国学力・学習状況調査検証委員会

令和元年度全国学力・学習状況調査の結果についてお知らせします。

1 調査の概要

(1) 目的

- ・子どもたちの学力や学習の状況を把握し、その成果と課題を検証して、改善を図る。
- ・子どもたちへの教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

(2) 実施学年・実施日

- ・市内すべての小学校6年生と中学校3年生 ・令和元年4月18日(木)

(3) 調査内容

- ・小学校6年生 国語 算数 学習や生活等に関する質問紙
- ・中学校3年生 国語 数学 英語 学習や生活等に関する質問紙

2 結果の概要

(1) 学力状況調査

全国の平均正答率と熱海市の平均正答率を比較します。(満点は100ポイント)

◎高い : プラス3ポイントを上回る ○やや高い: プラス1からプラス3

同じ程度 : プラスマイナス1ポイント以内

△やや低い: マイナス1からマイナス3 ▲低い : マイナス3ポイントを下回る

小学校

教科	国語	算数
熱海市(全国比)	同じ程度	△

中学校(英語の集計で「話すこと」は含まれない)

教科	国語	数学	英語
熱海市(全国比)	◎	○	同じ程度

(2) 生活習慣や学習環境等…全国と比べて熱海市の状況が特徴的なもの

小中共通

- ・学級みんなで話し合っただけ決めたことなどに協力して取り組み、達成感等を得ています。
- ・難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している子どもの割合は、全国平均を下回っています。

小学校

- ・住んでいる地域の行事に参加している子どもが、多くいます。
- ・毎日、同じくらいの時間に寝たり、起きたりする子どもは、全国平均を下回っています。

中学校

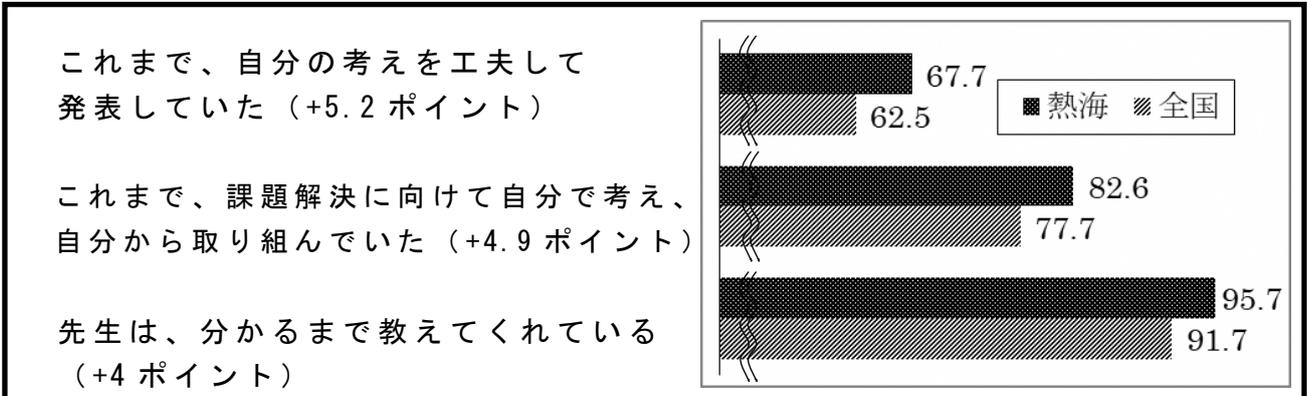
- ・「読書は好き」と回答した子どもの割合が高く、読書に親しんでいます。
- ・計画的に家庭学習を進めることが苦手で、授業以外の学習時間は全国平均を下回っています。

各教科の問題や特徴的なものを次ページからまとめました。

小学校 生活習慣・学習環境調査より

児童に対する質問58項目の集計結果を全国と比較し、熱海っ子の特徴を探ってみました。

まずは、質問内容に対して「はい」と答えている子の割合(%)が全国平均より特に高かった3項目をご紹介します。

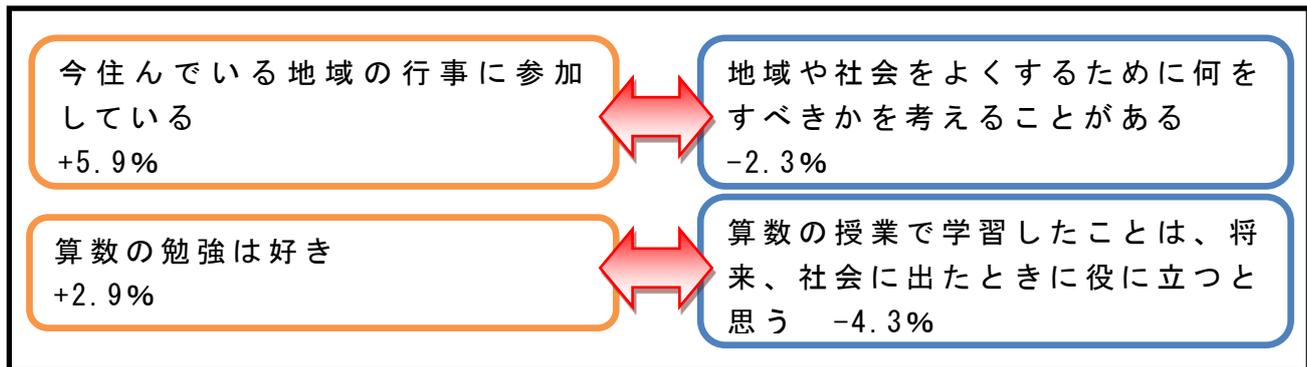


さらに、昨年度「気になる点」として挙げた項目にも大きな進歩が見られました。

＜「はい」と答えている子の割合の全国平均との差＞ (単位：%)	昨年	今年
算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える	-3.2	+1.8
算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える	-8.8	+0.5
1日に30分以上読書をしている	-3.5	+2.5

このように、全国値と比較して熱海市の方が結果の良かった項目を見ると、学校の授業や地域の行事に前向きに参加し、「分かった」「できた」という成功体験を生き生きと積み重ねている様子がうかがえます。

しかし、この全国値との比較を注意深く見比べてみると、いくつかの気になるギャップが見つかりました。



来年度完全実施となる新学習指導要領では、学校で学んだことが、子どもたちの「生きる力」となって、その先の人生につながることを目指しています。学校では、ここに向かう取り組みの中で、「主体的・対話的で深い学び」を合い言葉に、多様な学びを引き出すことに力を入れており、子どもたちも変わりつつあるようです。そこで次のステップは、子どもたちが学びの世界を広げ、目的意識をもって学べるよう、学校・保護者・地域が連携して環境を整えることだと考えます。

熱海っ子を伸ばしましょう

・豊かな可能性をもった子どもたちの未来をいっしょに考えましょう

学校での勉強をがんばっているよ！



先生たちも、わたしたちが分かるまで勉強を教えてください！

意欲の高い子どもたちの力をさらに伸ばすために

ポイント1 身近な生活の中で「問い」を意識

- ・「生活の中」で活用できないかな？
- ・どんなことに関係しているのかな？

ポイント2 家庭の中で読解力アップ

- ・家族で新聞にふれる機会を
- ・いろいろなジャンルの本を読む



ポイント3 地域の中で社会性アップ

- ・地域の人との積極的なかかわり
- ・何か自分にできることはないかな？

学校・家庭・地域が連携してレベルアップ！



熱海市教育振興基本計画・後期基本計画では、「熱海の未来をひらく人づくり」をサブタイトルとして掲げています。学校、家庭、地域が力を合わせて、未来を担う子どもたちを育ていきましょう。

国語で伸ばすポイントはこちら！

熱海市は、全国の平均正答率とほぼ同じという結果でした。問題別に内容を見てみますと、多くの問題で全国平均を上回っています。熱海市の正答率を下げていたのは次の問題です。

課題は、ここです！
漢字を書く力！！



【報告する文章】の —— 部アからウのひらがなを、漢字でていねいに書きましょう。

そこで、地いきの人三十人を調査の^アたいしょうとして、公衆電話は必要かどうかを聞いたところ、ほとんどの人が必要だと回答しました。

今回の調査を通して知ったことを、学級の友達に^イかぎらず多くの友達に伝え、公衆電話について^ウかんしんをもってもらいたいと思います。

正解 ア 対象
イ 限(らず)
ウ 関心

上の問題のアとイが、全国平均を大きく下回りました。そこで、漢字の練習のやり方を見直しましょう。



熱海っ子の漢字を書く力を高めるぞ！

ポイントは、漢字練習のやり方

同じ言葉をただ書くだけではダメですよ。



漢字練習の工夫例 漢字ドリルに出ている言葉だけを練習しても、十分ではありません。

- ① **その漢字を使ったいろいろな言葉を書こう。** 小テストに出る言葉だけを練習していませんか？
同じ熟語ばかりを書くのではなく、(訓読みも含めて)その漢字を使った熟語をいくつも集めて練習すると、その漢字の意味も、その漢字の使い方も頭に入りやすくなります。
- ② **ひらがなを見ながら書こう。** ノートの上に書いた漢字を見ながら練習していませんか？
読んだ後で上の漢字を隠したり、先に振り仮名だけを書いたりして、漢字を見ないで練習します。

ここが、ストロングポイント！

昨年度の課題が改善されています。



昨年度「課題」として挙げられたのが…「速く読み、速く解く力」と「目的に応じて読む力」です。

そこで、取り組んだことがこちら →

読み取る力を高めるために・・・普段の学習で大切にすること
○「速く読む」「時間を制限して、短い時間で解く」ことに慣れる。
○目的をもって読んだり、読み取ったことを活用したりする経験を積む。

今回の調査では、「問題を解く時間が足りなかった」と答えた子の割合は、全国平均を下回りました。無答の割合も、全国平均を大きく下回っています。また、「【インタビューの様子】から、話し手の意図を捉え、自分の考えをまとめる」という問題では、正答率で全国平均を大きく上回りました。

つまり、



- ① 「問題を解く時間が足りなかった」という子が少ない→速く読んで、速く答える力が付いた！
- ② 無答の子の割合が少ない→「書こう」という意欲も高い！
- ③ インタビューの問題の正答率が高い→目的に応じて読む力が付いた＝授業改善が進んでいる！

課題を克服し、よさをさらに伸ばせるように、わたしたちも授業改善を続けていきます。

この強みを、これからも持ち続けて！



算数で伸ばすポイントはここ！

今年度の算数の正答率は、全国平均より、やや低い結果になりました。

計算をして答えを求めたり、選択して1つの答えを求めたりする問題は得意です。
また、友達の立てた式の意味を読み解いたり、説明を理解したりすることもできている解答が多かったです。



苦手としていた問題 1-（3）を紹介します。

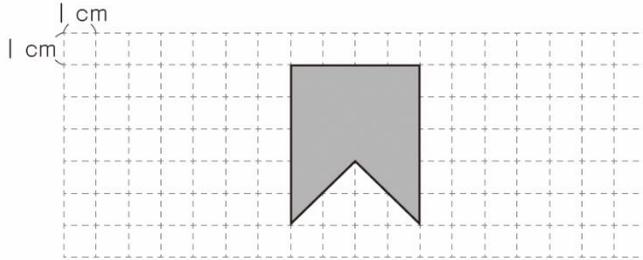


図1

【ちひろさんの求め方】

$$5 \times 4 = 20$$

$$4 \times 2 \div 2 = 4$$

$$\underline{20 - 4 = 16}$$

答え 16 cm²

【ちひろさんの求め方】の中の「20 - 4」は、どのようなことを表していますか。「20」と「4」がどのような図形の面積を表しているのかがわかるようにして、言葉や数を使って書きましょう。

多かった誤答例

20は5×4の長方形の面積で、4は下にできる三角形の面積を表している。



この誤答例には、何が足りないか分かりますか？

正答例

20は5×4の長方形の面積で、4は下にできる三角形の面積を表している。

そして、長方形の面積から三角形の面積を引くと、図形の面積が出ることを表している。

<正答の条件>

次の①、②、③の全てを書いている。

- ① 20が、長方形の面積を表していること
- ② 4が、三角形の面積を表していること
- ③ 減法が、ある数量からある数量を取り去ることを表していること

結論等をいう説明が必要です。

ポイント

理由となるものを全て取り入れて説明する力

結論を明確にして説明する力

- 「そして、どうなるのか。」「だから、どんなことがいえるのか。」など、結論まで話したり文章に書いたりする経験を積みましょう。

